

庁議の概要

開催日 平成 22 年 5 月 24 日（月）

◎項 目

- 1 平成 22 年 5 月 23 日大雨災害について【危機管理部】
- 2 口蹄疫対策について【農業振興部・危機管理部】
- 3 「県庁職員向け手話講座」のご案内【地域福祉部】
- 4 各部局等の動向について【各部局等】
- 5 その他

◎内 容

1 平成 22 年 5 月 23 日大雨災害について【危機管理部】

危機管理部から、5 月 23 日に発生した大雨災害の被害状況について概要説明を行った。

【概要説明】

- ・24 日 10 時現在暫定版の被害状況について、まず、香南市香我美町の別役、県道奥西川岸本線では、路側の崩壊により、県道下の住家の一部が損壊。人的被害はないが、住民 2 人が別棟の車庫に留まり、夜間は野市町へ避難をする予定。また、中土佐町の楠野川・ゆずりは地区で町道が崩落して 15 世帯、35 名が孤立をしている。現在、町が迂回路を設置するための仮橋を建設しており、25 日には迂回路が建設される予定。また、馬路村では土砂災害が発生しているが、被害はなかった。
- ・事前規制等により交通機関は運転見合わせ、国道・県道とも通行止めになっている箇所があったが、今後徐々に解消される見込み。
- ・被害状況の情報についてはまた情報収集を行う。

2 口蹄疫対策について【農業振興部・危機管理部】

農業振興部及び危機管理部から口蹄疫対策について概要を説明後、意見交換を行った。

【概要説明】

- ・宮崎県では、5 月 23 日の時点で 193 例、2 市 5 町に拡大している。殺処分対象家畜は 14 万 4,000 頭を超え、ヤギやヒツジなども発症しており、終息の気配はなし。
- ・5 月 18 日に四国 4 県防疫会議を設置し、四国で発生させないための対策や、万が一四国で発生した場合の連携、共同的な作業の合意、国や関係機関への要望等の整理をしている。県内では、まず宮崎県への家畜防疫員の派遣を行い、第一陣の第一期として、5 月 3 日から 6 月 9 日まで、計 6 名、延べ 40 日間、また、ワクチン接種対応のため、1 名を追加で派遣している。
- ・また、四国共同の取り組みとして、県内で偶蹄類を飼養している全ての農家に 5 月 20 日、21 日の間に全戸消毒のための消毒薬を配布した。約 350 戸、28 トン相当の消石灰を配布している。
- ・国が新たに打ち出したワクチン接種による防疫体制に対する考え方では、半径 10 km 圏内の移動制限区域内の豚、牛、全頭に対してワクチン接種を行い、症状、ウイルスの排出を抑制して感染拡大を阻止する。また、搬出制限区域の半径 10～20 km 圏内の牛、豚は感染の拡大を防止するために早期の出荷を促進し、この区域を緩衝地帯として、他地域への拡大を防ぐ。応援人員の体制については、まずは家畜防疫員の確保や県警、自衛隊派遣等々の対策等を打ち出している。

- ・防疫作業に係る全庁的な動員体制の構築は24日中に整理できる。
- ・消毒ポイントの交通規制等で警察本部との連携が必要。
- ・主要幹線道路については、県際間の消毒ポイント38箇所ですべて優先順位を決め、交通量の少ない道路については通行止めにする等の対策を考えるなど、調整中。
- ・高速道路については、サービスエリアやパーキングエリアでの家畜関係車両の消毒はNEXCOから了承をいただいている。ただ、高速道路における一般車両の消毒については、宮崎県でも行っていないし、全車両消毒は行われていない。
- ・市町村との連携強化については、21日に県内4ブロックで説明会を行い、埋却場所の候補地選定と、防疫作業等への職員派遣について協力依頼した。
- ・防疫作業の関係機関との調整については、トラック協会、バス協会と建設業協会へ優先的協力に向けた協定締結を行う。
- ・自衛隊配備については、協力依頼のもと、全面的な協力を得ることができた。

【意見交換】

- ・消石灰の備蓄はどのくらいあるのか。(知事)
→消石灰は37日分、消毒薬は9日分で1,648kg、車両消毒用は4日分で1,300kg確保している。
- ・備蓄量の積み増しはしているか。(知事)
→早急に手配するように指示している。
- ・農家が今回の全戸消毒で使い切るので、それでもなお発生した場合のために、備蓄量が何日分必要なのか、どこに置いておくのかを検討し、消毒薬を県内に分散配置しておいて、発生したらすぐに持っていけるよう準備しておくことが必要だ。(知事)
→畜産振興課と協議を行っている。また、万が一に備えて初動体制が取れるように、農業振興部の人員配置体制はとっており、関係部局にも要請している。
- ・消石灰は9日分備蓄しているとのことだが、実際に発生したら9日分で足りるのか。今、宮崎県だけでしか発生していないが、全国的に広がった場合に消石灰が足りなくなることはないのか。
→入手、ストックを持つのは厳しいと聞いている。すぐに必要分を調達できるかどうかは分からない。
- ・消石灰が何日ぐらいで製品化できるのかという点も含めて、県内で生産しなければならぬ状況になるのであれば協力依頼が必要。
- ・消石灰の性質上、備蓄に適さないのであれば、それを踏まえて調達ルートはどう確保していくのか検討が必要。(知事)

3 「県庁職員向け手話講座」のご案内

地域福祉部から、県庁職員向け手話講座の案内を行った。

【概要説明】

- ・障害がある人への理解、人権研修という趣旨から、6月10日から8月までの毎週木曜日の6時から1時間程度県庁職員を対象に手話講座を行う。参加費は1人4,000円。ぜひ参加していただきたい。
- ・また、視覚障害がある人の誘導の仕方や車椅子の介助の仕方など基本的なことについて、夏頃に研修会を開催したいと考えているので、ぜひ参加していただきたい。
- ・6月議会から、聴覚障害者が希望をすれば手話通訳をつけることができる。答弁については通訳しやすいよう気に掛けていただきたい。

4 各部局等の動向について【各部局等】

総務部が取りまとめた各部局の今週の動きに関する資料を配布の上、概要説明を行った。

- ・「土佐・龍馬であい博」のサテライト会場は色々なPR機能を持っている。是非市町村も来て宣伝してもらって、400万人観光につなげていきたい。(知事)

5 その他

- ・各部局の色々な事業については、産業振興計画の一環、日本一の健康長寿県構想の一環であるということ必ず明示し、目指す姿や全体の中での位置付けを説明するように。(知事)